



# 浜小だより

茅ヶ崎市立浜須賀小学校

2023年8月31日

9月号

学校教育目標 「未来をひらく浜小の子」～遊ぶ 学ぶ 助け合う～

校長 青柳 和富

## 「適度な距離感」

空梅雨の影響で、6月から7月にかけて高温が続き、プールの授業について計画通り全て実施できる（加えて当初予定以上の実施もあり）というこれまでに経験のない夏となりました。校内で会う子どもたちは皆よく日焼けしていて、例年の「夏休み明け」の様相を呈していました。

さて、4年ぶりの行動制限のないそれぞれの41日間の夏休みを経て、本日より学校が再開します。しばらくは酷暑の中での教育活動となりますが、引き続き、子どもたちにとって安全・安心な学校づくりに努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

夏休み前朝会では、次のような主に登下校時等の道路での安全についてお話ししました。

- ①ひやりとする場面が何度かあるのに事故が起きないのは車の方が気を付けてくれているから。しかし、交通ルールを守らない車や自転車もいることも頭に入れ、自分の生命は自分で守ること。
- ②みなさんが被害者にも加害者にもならないようにするために、道路を歩いたり自転車で走ったりするときは、何よりも優先して、自分は今、道路にいるのだという緊張感を持つこと。



そして、本日の夏休み明け朝会では、登下校の見守りをしてくださっている20名の方を写真で紹介しながら、「どうしてこの方たちは、みなさんを見守ってくださっているのでしょうか」と問いかけます。と同時に、私のフットワーク不足で今回ご紹介できなかった方の情報提供も子どもたちに呼び掛けてまいります。

今年、初めての試みとして、夏休み期間に浜須賀地区支援チームが「はまかんこどものいえ」を開催してくださいました。本事業では、会場である浜須賀会館が子どもたちにとってほっとできる場所となるよう、運営スタッフの方が上手に一人一人の子どもたちに接してくださっていました。登下校の見守りの場合は、多くの子どもたちの動きが重なる時間帯であること、注意喚起の声掛け等もしなければならぬことから、直接、子どもたちと話す機会は多くはありませんが、個々の通過時間や歩き方等をよく把握され、必要に応じて個別の声掛けも行っています。子どもたちは、こうした自分に携わってくれる大人との距離感を無意識の内に測っています。関係性の持ち方は子どもたちの個性によりますが、顔見知りとなり、何かあったら助けってくれる人という認識に至れば安心感が増し、具体的な関わりが生じればさらに信頼感が増します。

これは、家庭や学校でも同じです。普段子どもたちは、内容によってどの家族に話すか使い分けます。我が子で言えば、欲しい物があるときはパパに、これは鉄板です（まあ、役割分担があるのでよしとしましょう）。しかし、学校の場合、それだけでは足りません。「何かあったら先生に話を聞いてもらえる」「先生なら自分の相談に真摯に対応してくれる」という信頼感が求められます。もちろん、子どもたちの要望を全て受け入れるというわけではありません。物事の判断の線引きはあるけれど、相談の門戸はいつでも開いている。これが適度な距離感となります。大切なのは、この距離感を決めるのが大人ではなく、一人一人の子どもであるということです。

ただいるだけで

あなたがそこにただいるだけで  
その場の空気があかるくなる  
あなたがそこにただいるだけで  
みんなのこころがやすらぐ  
そんなあなたに わたしもなりたい

相田 みつを 「にんげんだもの」文化出版局